

教育文化部

令和5年度事業を振り返って

教育文化部長 市野川 浩

教育文化部は3つの部会で構成されており、今年度は新型コロナ対策を講じつつ以下の事業を実施しました。

【公民館部会】10月に若槻小学校体育館で幼児から高齢者まで多くの参加者を得てスポーツフェスティバルを実施、皆さんに好評でした。新年祝賀会では46名の参加者が和気あいあいの下に集いました。その他、若槻あいあい文化祭、二十歳の門出を祝う成人式についての開催に協力しました。

【人権教育部会】人権基礎研修、若槻住民集会、男女共同参画セミナーは講師の先生をお招きして、関係者と共にアンコンシャスバイアス、ジェンダー平等、LGBTQ等についての研修を行いました。また、各地区においてDVD視聴等による人権啓発推進活動や各種研修への参加、小学校の授業参観の見学等を行いました。

【青少年部会】若槻子ども相撲大会は今年度も中止としました。子ども体験教室はものづくり、遊びの楽しさを多くの参加者に味わって頂きました。1月の地域レクリエーション大会(巨大迷路)は企画・立案から製作・運営まで中学生が主体となり実施したもので、370名程の参加者に好評でした。その他、青少年健全育成に係る各種研修会等に参加しました。



スポーツフェスティバル

市立若槻公民館

『出会い・ふれあい・学びあい・そして築きあい』を目指して

公民館長 関 隆夫

令和6年1月1日16時10分、能登半島で発生した大地震は、地震の規模マグニチュード7.6、最大震度7が観測され、家屋倒壊や土砂災害、津波などにより亡くなられた方が200人を超える甚大な被害が発生し、被災地では未だ被害の全容が明らかではなく行方不明となっておられる方々の懸命な救助活動が行われています。さらに、2日には羽田空港C滑走路でJAL機が着陸した際に、海上保安庁の飛行機と衝突し5人の犠牲者が出てしまった事故が発生していました。

地震・航空機事故でお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りし申し上げます。

私たちを取り巻く現代社会は、様々な内憂外患が絶えない状況の中ですが、令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変更となり、規制緩和もされ公民館事業も徐々にではありますがコロナ発症以前の活気を取り戻しつつあります。令和2年度に三登山講座の座学で『信州の鉄道の歴史』を学びコロナで延期となっていた『信越線の難所・碓氷峠方面』の現地研修を講師の宮下健司先生と共に実施することもできました。

新年度も、より一層『出会い・ふれあい・学びあい・そして築きあい』を大切に地域の皆さんと共に歩み続けられる公民館を目指し、明るく・楽しく・育むことができる講座を積極的に推進して行きたいと考えております。



めがね橋

(一社) コミわかグリーン俱楽部

一年をふりかえって

(一社) コミわかグリーン俱楽部
中條 務

当社は、若槻地区内の遊休農地拡大の歯止め策の一つとして、市民菜園の設置を進めることで住民が土への親しみを持ち、野菜作りを通して農作業への理解を深めてもらうことを目的として設立されました。本年度も会員の皆様のご尽力と利用者様のご理解により、順調な事業展開ができました。

【市民菜園(コミわか農園)事業】13年前に当初20区画でスタートしたコミわか農園は20か所240区画となり、県内でも最大級の規模となっています。若槻地区はもちろん、広く市内の市街地などの市民に利用されています。

また、6年4月1日スタートに向けて徳間の養護学校の南側に農地9区画を増設しました。

【皋月かがやきこども園とのさつま芋栽培体験事業(JA吉田支所との協働事業)】恒例となった皋月かがやきこども園とのサツマイモ栽培体験、交流行事を、養護学校南の畑で行いました。そこでは苗の植え付け、収穫の体験をしてもらいます。今年も豊作で園児達は掘り出したサツマイモを背に大喜びで帰路につきました。

【ひまわり・ニンニク栽培事業】ひまわり栽培をしました。やっかいなスズメ対策は成功して、順調な集種ができました。商品のひまわり油販売は土曜朝市では苦戦ですが、何とか完売。ひまわり畑で冬はニンニクを栽培し販売しました。

【りんご体験広場事業】田子のリンゴ畑をお借りして、リンゴの栽培体験を続けています。

リーダーの指導の下、参加者が春の花摘から摘果、着色管理、収穫、出荷までを体験。採れたりんごはJAに出荷するほか、参加者にお持ち帰りいただきます。

今年度は猛暑のためか不出来で、参加者へのリターンは厳しい額に・・・。

【野菜づくり講座の開催】従来はコミわか農園利用者に限った講座でしたが、今年度から地区の一般住民にもお呼びかけを行ったことから、予想以上の方々に参加していただきました。